

「入園おめでとうございますの。  
ご進級おめでとうございますの。」

昨年秋、子どもたちがみんなで植えてくれたチューリップが、日に日にたくましく伸びて来ました。

寺尾中央公園では、桜の花芽が開花に備えて、しっかりと栄養を貯えています。

どちらも春を待つお子たちの成長と心情にそっくり重なるように思えて、新年度への期待が膨らみます。

初めて保育園という集団生活に入るお子には、不安や緊張が大きい四月です。

一方、ひとつ大きくなご進級した子どもたちにとっても、お部屋や担任の先生が代わり、新しいお友だちを迎えて何だか落ち着かない——これが毎年四月初めの保育園です。

そこで四月は、子どもひとりひとりの不安や緊張をやわらげ、友だちとの

関わりに興味を持ち、園生活の毎日を楽しめるように、職員一同、「おたかといふれあい」を第一に、ゆったりとした保育をひたすら参ります。

どうぞお教では「お友だちでまた」「何をして来たの？」「何が面白かったの？」「残さないうち食べたの？」などと追求め過ぎないようにして、見守ってくださいますようお願いいたします。

子どもたちには頑がいか、何かができるとか、大入りほいなどと言われる前に、しっかりと育てておかなければならないことがあるのです。

それは「人間性の基礎」です。思いやり、優しさ、親切、やる気、がまん、根気、などの情操と意志が人間性の柱になります。そして、愛されることをまっ直に喜ぶ。

このように「心を育てる」として、子育ての基本目標にしなければならぬ

にと思っております。

これが、開園以来続けてきた松の木の保育のベースです。

子どもが自ら育つ力とことん信じ、自らの育ちの芽を摘み取るような教へ込みや引き伸ばしを慎み、ひとりひとりの今ある育ちを支え、今の育ちが学びで、先の見通しを立って援助し続けることが大人の役割です。

松の木の保育目標「丈夫な心と元気な体」に向けて、連携を密に信頼と協調の輪の中で、子どもが子どもらしく、明るく元気に伸びのびと育ち行くように——と、願って新たな新年度を迎えました。

平成三十四年度も「子どもにとって一番善いこと」ができる保育教育を展開致します。ご理解とご協力を「よろしく」お願いいたします。

園長 藤田孝子